

# 神舞の庭

作／長田育恵 演出／立山ひろみ

## ～あらすじ～

宮崎の山間にある集落で、代々その地区の神楽を受け継いできた中崎家。祭りの前日、実家で暮らす次男・亮二夫婦のもとに、東京在住の長男・俊一が、突然妻子を連れて帰って来る。同日、老母・登志子が倒れて昏睡状態になってしまい……。混乱の中、中崎家の人々が抱える悩みが次第に明らかになっていく。

宮崎を舞台に、“今を生きる”人々を描く演劇創作シリーズ「新 かぼちゃといもがら物語」。第7弾は、2020年に上演し好評を博した『神舞の庭』(新演出版)を、一部キャストを新たにお送りいたします。今回、ビジュアル撮影のために来県した、出演者の大沢健さん、東風万智子さん、そして新たに出演する石川湖太郎さんに、お話を伺いました。

る不安が正直ありました。けれども、作品もそうですけど、この「新 かぼちゃといもがら物語」のコンセプトや、宮崎に1カ月滞在して宮崎の空気感に触れながら創作する、そして宮崎と東京の2箇所で行うというところがとても素敵だなと思って。そこに強く惹かれて、ぜひ僕で良ければ参加したいですってお答えしました。

## —あらためて作品の魅力について

**大沢** 演出の立山ひろみさんとも話していたんだけど、この作品は今回で3回目の上演。2018年の初演時は、まさに話の内容がリアルタイムで、これからオリンピックがあるという状況でした。私たちが出演した新演出版(2020年)は、オリンピックの延期が決まった中で上演で、初演時と状況が変わっている。今回はオリンピックも終わって、けれどもコロナ禍という問題が続いている中で上演になるので、お客さんがどう観るのかな、どういう風に受け取るのかな、というのが楽しみです。実際の事柄を扱った話は、旬な時期を過ぎてしまうと、上演されなくなることが多いので、これだけ上演続けられるということ自体、すごく珍しいことですし、同じ作品でも見え方・感じ方が変わってくる、それがこの作品の魅力でもあるし、それぐらい続ける意味のある作品だと思います。オリンピックがもはや過去のこととなった今に観るからこそ、逆に家族とかの関係性にクローズアップされるのかなと思ったりして。そういう意味で、今回の見え方、っていうのはすごく楽しみです。

**東風** 魅力・見どころはたくさんあって、今や

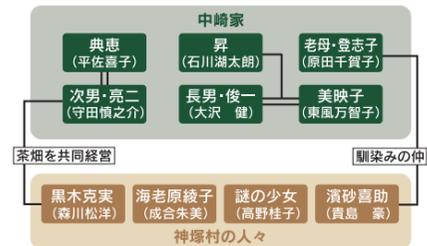
る意味もそう。きつと観る人みんなに、どこか重なる部分がある。一回上演してはいても、前回から2年経って、いろいろ吸収してきた役者たちがもう一回集まって作品を作るので、私たち役者のアンサンブルで生まれてくる、家族のストーリーとか、それぞれの関係性や思いとか、そういった部分もぜひ楽しんでほしいですね。

**大沢** 息子・昇役と、俊一の弟・亮二役が新たなキャストになる\*2ので、そういう意味では再演といえども、もう一度新しく創るという感じがありますね。

**東風** 登場人物それぞれにストーリーがある作品で、みんな抱えているもの、生きてきたそれぞれがある。観る人もそれぞれの立場で共感できるポイントがある。そこが魅力です。いろんな人が共感できるポイントがあると思います。

**石川** 僕は台本を読んで、限界集落や神楽と

## ■ 関連図



いった大きいベースの中に、介護の問題や若者の人手不足だったり、それぞれオリンピックのことだったり、さまざまな要素が含まれていて、社会性のある作品だと思っていました。単なる宮崎にある一つの村のできごと、ということだけではなく、普遍的な社会問題が内包されている。かと思えば、謎の少女が出てきて、神秘的な要素もある。社会性とファンタジー要素が融合して、ふわふわした読後感があって、これはおもしろいなと思いました。

## —話は変わりますが、宮崎でしたいこと、行きたいところなどありますか？

**大沢** 前回いろいろ行ったからなー(笑)。今回行けるかどうか分からないけど、霧島とか温泉の方は行ってないので、宮崎で温泉を……。

**東風** また遠出になりますね(笑)。

**大沢** 行きたくて行ってみたい、意外に遠いと思ってますね(笑)。宮崎広いんだってことがよく分かる。地図だけ見ていると、近いように見えるんだけどね。実際に行ってみたらすごく遠い。宮崎の広さを実感しましたね。

**東風** 地図を見るだけだと分からないですよ、体感しないと。私はきんかんをたくさん食べようと思っています！2月は旬なんです。めっちゃめっちゃ美味しい。『幻視』\*3で宮崎に来るまでは、そこまで好んで食べてはなくて、でも宮崎のきんかんを食べたら本当に美味しくって。稽古場に差し入れていただいて、休憩の度に食べていたら、ほとんど私が食べました(笑)。東京でも宮崎産って書いてあるきんかんを見つくと、買うようになりましたね。

**石川** えー！絶対食べたい！

**大沢** 時期のもの食べるっていうのはいいね。

**石川** 僕は宮崎初めてなんですけど、宮崎はマンゴーとか地鶏っていうイメージで、美味しいものが多いのかなって漠然と思っていて。今回大沢さんにいろいろお店を教わって、地鶏を食べて衝撃を受けました。食感が全然違って、「本物だ！」って。すでに宮崎が好きです

\*3……2020年2～3月にかけて上演の同シリーズ#4。



石川 湖太郎  
俊一の子役、中崎昇役



ビジュアル撮影の様子

(笑)。気候もすごく気持ちよくて、住みやすいんだろうなって思います。今から来年が楽しみにになりました。

**大沢** うどんをね、ぜひ食べてほしい。柔らかいうどん。

**東風** 宮崎のうどんは美味しい。大好きです。

**大沢** あれは、東京ではあまり食べられないよね。あの味はなかなかない。

**石川** えー！楽しみー！

**大沢** 僕が宮崎に来たら必ず行くのは大盛うどん。あと、釜揚げうどんで戸隠と織田薪つてお店もおすすめ。

**石川** 話聞いているだけで、おなか空いてきますね(笑)。

## —最後にお客様にメッセージを

**大沢** この作品は、家族の話だったり、限界集落が抱える過疎化のことだったり、いろいろな要素が含まれています。その中で家族を神楽が結ぶ、実際に神楽を舞うシーンがある。しかも、これが一夜という限られた時間の中で繰り広げられる話で、いろいろな要素が薄まることなく濃密に描かれている。すごくよくできた作品だと思ってます。宮崎の方もそうですけど、今回初めて観る東京の方がどういう風に作品をとらえるのかなっていうのもすごく楽しみです。同じ作品でもキャストが一部変わっているので、おのずと違うものが生まれてくると思います。一度観た方にもぜひ観て欲しいです。きつとお客さまの誰もが、自分の何かと重ねて観るでしょうから、すごく演じる側と

しては楽しみです、ぜひ自分の何かと重ねながら、観ていただけたらと思います。

**東風** 一部キャストが変わるので、作品の見え方は変わっていると思いますし、前回ご覧になった方も2年経って、その2年間生きてきた上での作品の受け取り方って違うと思うので、また観ていただいて、いろんなものを感じていただきたいです。もちろん、観たことのない方には、今この瞬間に観ている感じてもらいたいと思います。宮崎という土地で、みんなで作った作品をお届けしますので、ぜひ劇場で楽しんでいただきたいです。

**石川** 今回来県して、周りの環境や人に触れて、とてもあたたかい気持ちになりました。宮崎の気候だけじゃない人間のあたたかさみたいなものを、舞台上で出せるようにしたいです。作品の中で、もちろん人間関係の冷たさや緊張がある中で、最後にはあたたかいものがふわあつてしみると思うので、お客さんにもそう感じてもらえるようにしたいですね。この先、コロナの状況は見通せないですけど、以前よりは実家に帰って、家族や地元の友人に会える状況になりつつあると思います。きつと、この作品を観たら、みなさんどこか懐かしさを感じる。そうなった時に、祖父母、親、地元の友達とかに、会ってみたい、ちょっと電話してみようかなってそういう気持ちになってくれたらいいなと思います。ぜひ楽しみにしててください。

## 公演情報

### 「新 かぼちゃといもがら物語」#7 『神舞の庭』

■宮崎公演 2023年3月1日(水)～5日(日)  
(平日) 開場18:30 開演19:00  
(土日) 開場13:30 開演14:00  
会場:メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) イベントホール

■東京公演 2023年3月11日(土)・12日(日)  
(両日とも) 開場13:30 開演14:00  
会場:東京芸術劇場 シアターウエスト

[作] 長田育恵 [演出] 立山ひろみ  
[出演] 大沢健、東風万智子、石川湖太郎、貴島豪、平佐喜子、成合朱美、森川松洋、守田慎之介、高野桂子、原田千賀子



「神舞の庭」(2020年) ©黒木朋子

\*1……2020年東京公演を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。 \*2……息子・昇役に石川湖太郎、俊一の弟・亮二役に守田慎之介。